

てん菜は北海道の畑作農業における基幹的な輸作物として位置づけられ、地域経済の重要な役割を担っており、北海道でしか栽培されていないため、研究会を開催しています。

本年は、グリーンテクノバンク・てん菜研究会、第10回技術研究発表会（主催：NPO法人グリーンテクノバンク、農林水産省、共催：農研機構北海道農業研究センター、北海道てん菜協会）が成24年7月20日（金）に札幌市の北農ビルにおいて開催されました。本年度から北海道農業研究センターと北海道てん菜協会が新たに共催団体となりました。

てん菜研究会会長の八戸三千男（グリーンテクノバンク専務理事）の開会挨拶あと、技術研究発表会（一般講演9課題）が行われました。その後、独立行政法人農畜産業振興機構調査情報部上席調査役脇谷和彦氏から特別講演として「海外におけるてん菜・てん菜糖の生産動向—EU、中国を中心に—」と北海道農業協同組合中央会 農業対策部 畑作農業課主幹鈴木昭寿氏から「てん菜生産現場の現状と今後の対応方向」として、国際的なてん菜生産と北海道の現状などが報告され、その後総合討論が行われました。

てん菜研究会は、典型的な産官学から構成されており、糖業各社、関連企業、大学、農研機構、道総研など幅広い分野から102名の出席者がありました。

